第２学年　生活（交通安全）　　　　　　　　　　　　　　　　　場所：２年２組教室

三茶の町の交通安全マップを作ろう

指導者　　和知　奈穂子

ゲストティーチャー(ＧＴ)　　地域交通安全ボランティア

**１　目標**

　・通学路や地域の道路での交通安全について具体的に理解し、安全な歩行ができるようにする。

　・地域の交通事故防止に協力する人がいることを知り、自分たちも貢献しようとする意欲をもつ。

**２　新学習指導要領との関連**　　【生活】内容(1)(3)

(1) 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

(3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

**３　単元について**

児童はこれまで、様々な機会に交通安全について学習してきた。交通安全教室や歩行者シミュレータ体験を含めた安全学習をはじめ、日常的にも事故が多発する水曜日や金曜日、雨天時などを中心に一声指導を行っている。それらの学習を通して、歩行中に様々な危険、例えば停車中や右左折車の陰から車両が来ること、駐車場等の出入りで歩道を横切る車両があること、交通ルールを守っているつもりでも慌てたり何かに夢中になったりすると危険な行動をする可能性があることなどを学んだ。

本単元では、これまでに学習したことを視点として自分たちの生活する三軒茶屋の地域について見直させたい。三軒茶屋の地域は幹線道路に囲まれ、交通量が非常に多い地域である。信号の変わり目に車が横切ったり、駐車車両で視界が悪くなったりすることも日常である。学習を通して、この地域で交通事故に遭わないように生活すること、さらには学校のみんなが安全に生活できるよう貢献することをねらいたい。また、安全への願いをもち地域の交通安全を守ってくれている様々な人の存在に改めて気付き、彼らへの尊敬や愛着の思いを大切にして、自分たちにできることを見付けさせたい。

**４　主題に迫るための手だて**

　・交通安全のために活動する人をＧＴに招き思いや願いを聞き共感することで、安全な行動をしようとする意識を高め、地域の交通安全に貢献しようとする意欲をもてるようにする。

　・保護者へ協力を要請する。12月の保護者会で具体的に説明し課外での調査に協力してもらう。

　・具体的な場面を捉えられるように、映像資料や警察官の話を活用する。

　・みんなの安全に貢献する意識をもたせるために、３月の校外班活動でプレゼンの機会を設定する。

**５　指導計画　（４時間）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ☆ねらい　○学習活動 | ◎安全教育の視点に立った留意点　■評価 |
| １ | ☆交通事故に遭いやすい場面や場所があることを理解し、学習の課題をとらえる。  ◯既習内容や警察官の話から、事故が多発する場所をとらえ、回避する方法を話し合う。 | ◎具体的に認識できるよう、映像資料や警察官(ＧＴ)の話を活用し危険予測をさせる。  ■交通事故に遭いやすい場所を具体的にとらえ、危険を回避する方法を考えている。 |
| 課外 | ◯家の周りの場所を具体的に調べる。 |  |
| ２  ３ | ☆地域に注意の必要な場所が多いことを捉える。  ◯調べた場所を友達に紹介し、地図上に表す。  ◯完成した地図から気付いたことを話し合う。 | ◎紹介の際は｢なぜ危険か｣｢どうするか｣を明確に伝え、地図上に表現させる。  ■注意の必要な場所を具体的に捉えている。 |
| ４  (本時) | ☆学区域の交通安全を見守る人がいることを知り、自分も貢献しようとする意欲をもつ。  ◯地域の交通安全指導を行う方の話を聞く。  ○注意を要する場所を紹介するチラシを作る。 | ◎実際に働く人に触れ、他者や地域の安全に貢献しようとする意欲をもたせる。  ■チラシ作りを通して、危険な場所や回避の方法を伝えようとしている。 |

**６　本時の展開 （４／４）**

**（１）ねらい**

　　・学区域の交通安全を見守る人の働きを知り、感謝の気持ちをもつ。

　　・みんなが交通安全に気を付けて登下校するために、貢献しようとする意欲をもつ。

**（２）指導の実際**

|  |  |
| --- | --- |
| ○学習活動　・予想される児童の反応 | ◎安全教育の視点に立った留意点  ■評価（評価方法） |
| ○完成した交通安全マップを見て、前時までの学習を振り返る。  　・危険な場所がたくさんある。  　・交通事故に遭わないように、気を付けて歩かなくてはいけない。  　・他の学年にも教えてあげたい。  ○本時の課題をつかむ。  ○交通安全ボランティアの方の話を聞く。  　＊毎朝、上馬の通学路に立っている。  　＊地域の人が交代で馬出しもしている。  　＊エピソード、思いや願い  　→ 通学路の｢ここは気を付けないといけないよ｣という場所を、学校のみんなに教えてあげてほしい。  　・見守ってくれている人もいる。嬉しい。  　・おかげで安全に歩けるんだな。  　・自分たちでも気を付けないといけない。  　・学校のみんなにも教えてあげたい。  ○交通安全マップで学校から家までを辿り、｢なぜ危険か｣｢どこでどのように気を付けるか｣を確認する。  　・環七の信号は、青に変わっても車が来るかもしれないから、よく見て渡ろう。  　・コンビニの前の駐車場から、車が出てくるかもしれないから、よく見て通らないといけないよ。  　・ここにはいつも車が止まっていて見通しが悪いから、左右をよく見よう。  ○一番危険だと思う場所と回避方法を伝えるチラシを作成する。  　・特に気を付ける場所は、○○です。なぜなら…  　・ここでは、このように注意をします。  　・他にも、こんな場所で気を付けてください。 | ◎補助発問等によって、自分たちだけではなく、全児童(特に下級生)が安全に登下校できるようにしたいという思いをもたせる。  三軒茶屋小学校のみんなが安全に登下校するためには、どうしたらいいのだろうか。  ◎ＧＴの他にも、学校主事や馬出し当番の保護者など児童の安全を守ってくれる人が多くいることに気付かせる。  ◎ボランティア等が立っている場所も、マップ上に表す。→安全な場所として認識  ◎近所同士で協働学習ができるよう、校外班ごとに活動させる。  ◎実際に地図上を辿ることで、地域の様子を具体的に思い起こし、危険な場所を認識できるようにする。  ◎危険な理由を地図上に表記させておき、具体的に確認できるようにする。  ◎チラシ(ワークシート形式)はひな型を準備し、短時間でポイントを絞って作成できるようにする。  ◎完成したチラシは校外班活動の際に他学年に紹介することを伝え、相手意識をもって活動に取り組むことができるようにする。  ◎危険を明確に表現するため、文を先に記入させる。  ■チラシ作りを通して、危険な場所や回避の方法を伝えようとしている。(作品･観察) |